

健康・スポーツ科学科の科目と資格に対する学生ニーズ

中村哲士, 坂井和明, 松本裕史,
濱屋桃子, 田中繁宏
(武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科)

Student's Needs for Subjects and Qualifications in Department of Health and Sports

Tetsushi Nakamura, Kazuaki Sakai, Hiroshi Matsumoto,
Momoko Hamaya, Shigehiro Tanaka

*Department of Health and Sports, School of Letters
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

Abstract

The purpose of the research is to reconsider the curriculum in Department of Health and Sports. In this research, the consideration of each grade to subjects and qualifications was analyzed.

The results were summarized as follows:

1. Students thought that the important subject studied at the university was "Nutrition", "Medicine", and "Coaching".
2. University students are aspiring becoming the teacher. College students are aspiring finding employment in the enterprise.
3. Students of any grade also think that the acquisition of the qualification is important. Especially, it thinks the acquisition of the teacher's license to be very important.
4. Students had selected the qualification acquisition by "Qualification concerning health" and "Qualification concerning athlete".

緒言

近年、大学における学生の授業満足と実力獲得のギャップについて、さまざまな場所で論議され、調査・研究が進められている。ベネッセ教育総研の調査報告によると、大学満足度の阻害要因と考えられるイメージギャップの大きい項目は、依然として、授業・学習に関するものと、進路支援体制に関するものである¹⁾とされ、大学教育への期待と取り組みに関する分析の詳細報告においては、期待度は、専門教育とりわけ「専門科目」が80.1ポイントと最も高く、次いで「資格取得」が54.3ポイントと高いこと、取り組み度については、「専門科目」が62.0ポイントと最も高く、次いで「資格取得」が41.8ポイントと高いことが明らかにされている²⁾。すなわち、専門教育と出口準備教育に対する学生ニーズは非常に高にもかかわらず、大学において最も対応が遅れているのも同分野ということになる。

これまでのイメージギャップに関する調査・研究は、在学中や授業直後に調査される場合が多かったようである。しかし、専門教育と出口準備教育の成果は、実際に役立ったかどうかを判定されなければならず、在学中の判定は難しい。この観点から、梶田³⁾は、大学における教育成果は、時間を経た後に、その大学での教育経験がどの程度どのような形で役立っているか、という視点から検討されなくてはな

らないとし, ①卒業の時点における学生の振り返り, ②卒業後の学生の進路, ③年月がたった後の卒業生の振り返り, ④年月がたったあとの卒業生の活躍状況の4点を学生側の評価視点とした上で, 振り返り調査・評価の重要性を指摘している. ①について本学では, 教育研究所において「女子大学の存立意義に関する調査研究」が行われ, 学科ごとに4年生の「大学生活を振り返っての率直な感想」がまとめられている. 関連する項目の本学科の回答率は, 「職業に役立つ知識や技能を身につけることができる」に対する肯定的回答が42.0%, 否定的回答は13.7%, 「希望する資格や免許を取ることができる」に対する肯定的回答が63.4%, 否定的回答は7.6%となっており⁴⁾, 他学科と比べると, 中程度からやや低い数値であることが報告されている. 実践的指導者養成機能を有する本学科としては, 大変不本意な結果といわざるを得ない.

そこで本研究は, 本学科における教育内容の再検討に際しての資料を得ることを主目的に, 設置している専門科目と取得可能資格に関して再度学生ニーズを調査し, 学年間に存在する意識の違いについて分析しようとするものである. 特に, 振り返りを重視し卒業学年との比較を中心に構成する.

方 法

1. 科目・資格の概要と分析の対象

(1) 科目・資格の概要

武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科(以下, 大健)で開講されている専門教育に関する科目数は115科目であり, 在籍中に取得あるいは取得に際して一部受講・受験が免除される資格は, 初級・上級等の別を加味すると24資格となる⁵⁾. 同様に同短期大学部健康・スポーツ学科(以下, 短健)で開講されている科目数は70科目であり, 設置資格は20資格となる⁶⁾.

(2) 分析の対象

本学科2008年度在籍学生, 大健4年生174名, 3年生176名, 2年生194名, 1年生189名, 短健2年生95名, 1年生94名を調査対象とし, 大健4年生78名, 3年生124名, 2年生143名, 1年生169名, 短健2年生60名, 1年生86名の内, 有効回答分を分析の対象とした.

2. 調査の内容と方法

(1) 調査内容

「興味深い科目」と「取得希望の高い資格」はなにかを明らかにできるよう調査票を構成した. より深く学んでみたいと思う科目については, 大健と短健で共通するよう各科目を分野ごとに縮約しなおし, その他を含み19項目を設問した. 資格取得希望の度合いについては, 13資格に縮約し5件法により判定してもらう方法をとった.

縮約した科目・資格, およびその略称は以下のとおりである.

<科目>

①体育原理, スポーツ哲学に関する科目(原理), ②栄養, スポーツ栄養に関する科目(栄養), ③体育史, スポーツ史に関する科目(歴史), ④体育社会, スポーツ社会に関する科目(社会), ⑤体育心理, スポーツ心理に関する科目(心理), ⑥解剖生理, 運動生理に関する科目(生理), ⑦バイオメカニクスに関する科目(バイメカ), ⑧経営管理, マネジメントに関する科目(マネジメント), ⑨発育・発達, 老化に関する科目(発育), ⑩測定・評価に関する科目(測定), ⑪保健体育科教育に関する科目(教科), ⑫障害者スポーツに関する科目(障害), ⑬福祉, 介護・看護に関する科目(福祉), ⑭健康・体力づくりに関する科目(健康), ⑮医学, 救急処置に関する科目(医学), ⑯人類, 文化に関する科目(人類), ⑰体育方法, スポーツ方法に関する科目(方法), ⑱コーチング, 指導法に関する科目(コーチング), ⑲上記以外の科目(その他)

<資格>

①中高教員免許, ②健康運動指導士(実践指導者), ③アスレティックトレーナー, ④小学校教員免許, ⑤レクリエーション・インストラクター, ⑥障害者スポーツ指導員, ⑦エアロビックダンスエクササイ

ズインストラクター (A.D.I.), ⑧アクアビクスインストラクター, ⑨スポーツリーダー, ⑩競技別指導者(コーチ), ⑪スポーツプログラマー, ⑫クラブマネージャー, ⑬図書館司書

(2) 調査方法

全ての調査を, 集合調査方法を用いた無記名方式で実施した. 実施時期は, 2008 年度後期期間中とした.

3. 分析の手続き

深く学びたい分野については, χ^2 検定およびコレスポンデンス分析を用い, 学年と分野の関係を検討した. 取得したい資格については, 主成分分析を用い情報の縮約を行うとともに, 学年間の希望度比較を一元配置分散分析の多重比較検定を用い判定した. 分析に当たっての統計処理は, PASW Statistics 17.0 を用いた.

結果と考察

1. 深く学びたい分野

より深く学びたいと思う科目分野について, 大学・短大や学年の別で違いがあるのか, 回答分布, χ^2 検定, 調整済み残差, コレスポンデンス分析を用い検討した.

回答分布から大学と短大で明らかな相違があること, 大学における学年間と短大における学年間には見た目上の差はなく, 似た傾向にあることが予想された(Fig.1.2.). 大学生は, 栄養, 心理, 教科, 医学, コーチングに関連する科目に多くが興味を持っており, 短大生は, 回答率は低めながら, 栄養, 心理, マネジメント, 医学, コーチングに興味を持っているといえよう.

各学年の回答率の差について検討したところ, χ^2 値が 1%水準で有意であったことから, 興味深い科目に学年差のあることが明らかとなった. 学年によってどのような違いがあるのか調整済み残差を用い判定した(Table1.). 結果, 調整済み残差の絶対値が 1.96 より大きく有意であると判定された箇所が 7 箇所見つかかり, ①大学 4 年生は, 医学系科目を好むものが多い, ②大学 3 年生に特徴はない, ③大学 2 年生は, 健康・体力づくり系の科目を好むものは少ない, ④大学 1 年生は, 方法学と社会学系科目を好むものは多いが, 栄養学系科目を好むものは少ない, ⑤短大 2 年生に特徴はない, ④短大 1 年生は, マネジメント系科目を好むものが多く, 心理学系科目を好むものは少ない, ということが明らかとなった.

そこで, 行および列のカテゴリ間の差または類似性を知らなかったため対称的正規化によるコレスポンデンス分析を用いその傾向を調べた(Fig.3.). イナーシャの寄与率は, 1次元が 41.6%, 2次元が 27.6%で, 累積寄与率は 69.1%となった.

行・列それぞれのプロファイルと合わせながら解釈すると, まず, 原点の近くにプロットされ, ある層にだけ特に好まれたり好まれなかったりするというような特徴を持たない科目と, いずれからも興味深いとは感じられていない科目が発見された. どの学年にも共通に, 興味深く学びたいと感じられている科目は, 医学とコーチングの 2 科目, どの学年においても回答率は高くないが差もない科目は, 生理, バイメカ, 発育, 測定, 福祉の 5 科目, いずれからも興味深いと感じられていない科目は, 原理, 歴史, 社会, 人類の 4 科目であった. 次に, 大学と短大の傾向についてみると, 大学は大学で, 短大は短大で, おのおの近くにプロットされ, 1 年生は 1 年生で, 上級生は上級生で近くにプロットされている. 大学と短大では違う志向をしている傾向がうかがえ, 大学生の中でも大学 1 年生と上級学年生に, 短大生も 1 年生と 2 年生の間に違いが見られた. 共通部分を除いた学年ごとの特徴は, 大学 4 年生は, 栄養, 心理, 教科, 障害を, 大学 3 年生は, 栄養, 心理, 教科, 健康を, 大学 2 年生は, 栄養, 心理, 教科, 障害を, 大学 1 年生は, 心理, 教科, 健康, 方法を, 短大 2 年生は, 栄養を, 短大 1 年生は, マネジメント, 健康, 方法を, 興味深い分野としていた.

以上のことを総合すると, 1) 栄養, 医学, コーチング系の科目はどの学年も興味深いと感じている, 2) 心理, 教科系の科目は大学生が興味深いと感じている, 3) 健康系科目は大学 3 年生, 大・短 1 年生が興味深いと感じている, 4) 方法系科目は大・短 1 年生が興味を感じている, 5) マネジメント系科目は短大

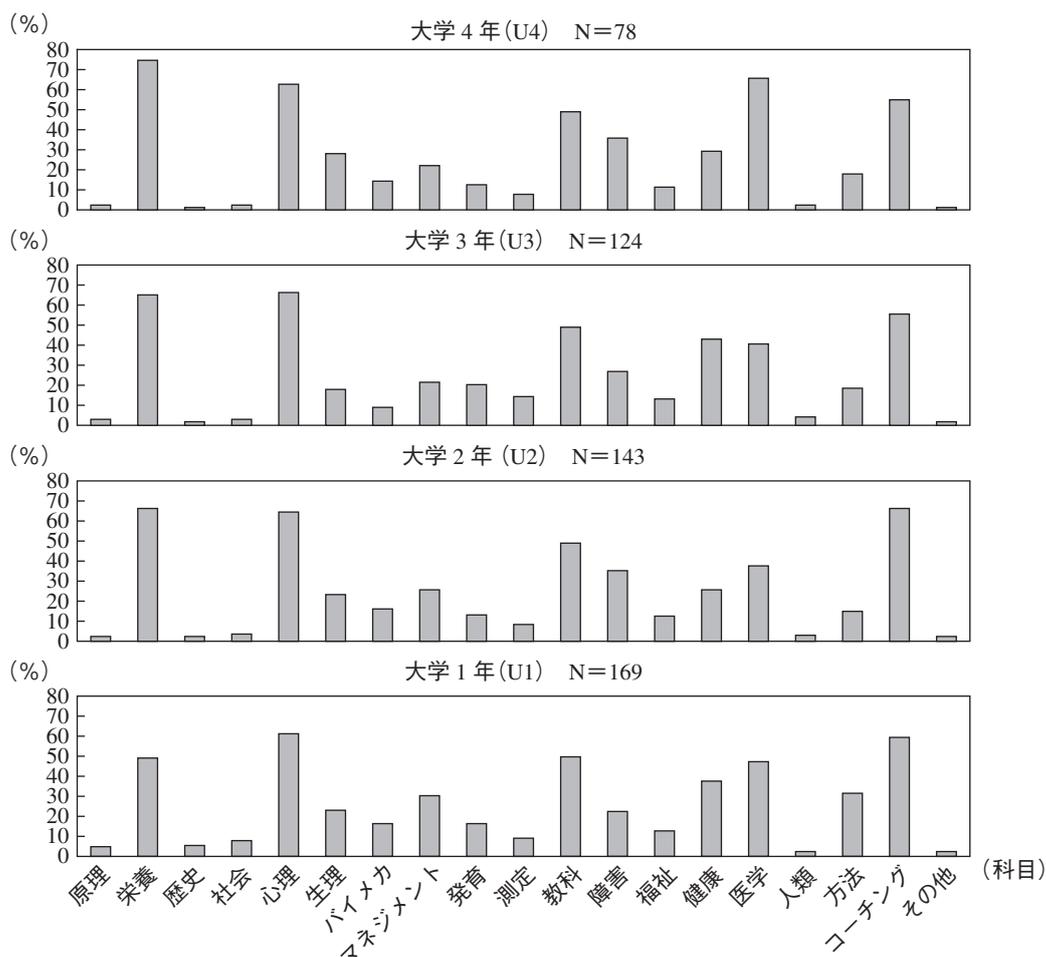


Fig. 1. 大学生の興味深い科目

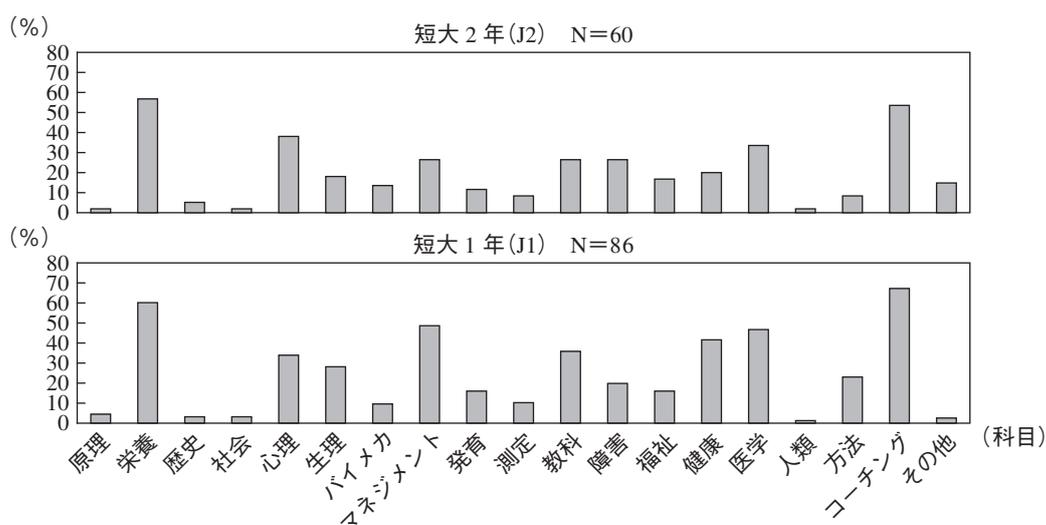


Fig. 2. 短大生の興味深い科目

Table 1. 学年と興味深い科目の関係(χ^2 検定結果と調整済み残差の検討)

学年	科目																	
	原理	栄養	歴史	社会	心理	生理	バイメカ	マネジメント	発育	測定	教科	障害	福祉	健康	医学	人類	方法	コーチング
4年(U4)	-0.48	1.23	-1.08	-0.86	0.29	0.79	-0.04	-1.53	-0.87	-0.80	0.09	1.21	-0.65	-1.05	2.62	-0.09	-0.79	-1.07
3年(U3)	-0.09	0.62	-1.11	-0.64	1.44	-1.41	-1.61	-1.73	1.40	1.81	0.63	-0.30	-0.19	1.86	-0.93	1.10	-0.63	-0.87
2年(U2)	-0.92	0.97	-0.83	-0.50	1.32	0.04	0.96	-0.78	-0.82	-0.64	0.71	1.94	-0.29	-1.96	-1.50	0.18	-1.82	1.14
1年(U1)	1.05	-2.90	1.70	2.39	0.33	-0.20	1.07	0.10	0.15	-0.64	0.60	-1.78	-0.58	0.56	0.23	-0.28	3.36	-0.66
2年(J2)	-0.48	1.07	1.27	-0.74	-0.86	0.06	0.68	0.70	-0.14	0.17	-1.29	0.88	1.55	-1.08	-0.26	-0.20	-1.61	0.75
1年(J1)	0.71	-0.13	0.16	-0.38	-3.34	1.04	-1.17	3.79	0.15	0.18	-1.50	-1.55	0.79	1.36	0.24	-0.89	0.56	0.95

1. $\chi^2(85) = 118.60, P < 0.01$.

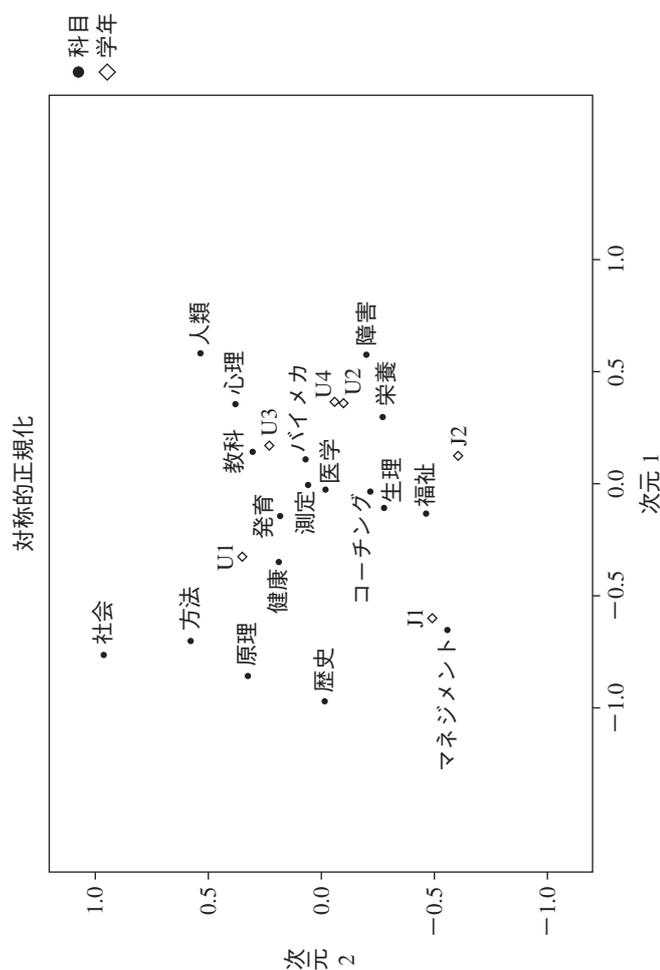


Fig. 3. 学年と興味深い科目のバイプロット

1年生が強く興味を感じているの、5件が推考された。1年生は入学直後であるため、体育・スポーツの方法論を早く習得したがついている様子がうかがえるが、基本的に学生たちは、栄養、医学、コーチング系の科目を、大学で学ぶに当り重要な科目と位置づけ、大学生は教職への志向が強く、短大生はフィットネス関連企業への就職志向が強いと考えられた。

2. 取得したい資格

本学科で取得可能な資格の取得希望度を「絶対にとりたい」から「取らなくてもよい」までの5件法で回答してもらい、学年間と資格間のそれぞれの傾向を分析した。

それぞれの資格は学年によって取得希望度が違うのかについては、一元配置分散分析と多重比較 Tukey の HSD 法を用い、学年によって各資格の取得希望度に違いがあるのかについては、一元配置分散分析と被験者内因子の多重比較を用いて検討した。なお、被験者内因子の多重比較においては、球面性の仮定は全ての学年で棄却され、Greenhouse-Geisser の検定結果も全学年 0.1%水準で有意であったため、Sidak の方法による多重比較を行った。結果、各資格の学年間、各学年の資格間の双方すべてに有意な差が認められた (Table2.)。

5件法の第3段階は「できれば取りたい」としたため、まず平均値 3.5 以上に着目した。大学生のすべての学年で「中高教員免許」の取得希望が 4.0 以上で非常に強く、「健康運動指導士」は下級年次生の取得希望度が高い傾向がうかがえた。また、平均値 3.0 以上に着目すると、短大2年生、大学2年生、大学4年生、短大1年生の順で資格取得希望に対して積極的である傾向がみられた。

これらの情報を集約した形で検討したかったため、主成分分析を用い各学年ごとの分析を行った (Table3.4.)。学年ごとに主成分分析をすることの妥当性については、Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度 (KMO) を用い、観測変数間の関連については、Bartlett の球面性検定 (B) を、信頼性については、Cronbach の α 係数 (C) を用いて判断した。結果は、大学1年生 (KMO=0.727, B=P<0.001, C=0.716)、大学2年生 (KMO=0.849, B=P<0.001, C=0.891)、大学3年生 (KMO=0.796, B=P<0.001, C=0.856)、大学4年生 (KMO=0.722, B=P<0.001, C=0.760)、短大1年生 (KMO=0.762, B=P<0.001, C=0.869)、大学1年生 (KMO=0.691, B=P<0.001, C=0.820) となり、どの学年においても、主成分分析することの妥当性は高く、主成分を考えることに意味があり、合成に用いる変数間での内的整合性は十分に高いことが明らかとなった。解釈については、固有値 1.0 以上、寄与率 10.0% 以上、主成分負荷量の絶対値 0.400 以上を基本条件に行った。

大学1年生は、第1主成分は、教員免許、アスレティックトレーナー、図書館司書を除いた資格を、第2主成分は教員免許を、第3主成分は競技別指導者資格を取得希望する3つの主成分に集約された。大学2年生は、第1主成分は、中高教員免許、図書館司書を除いた資格を、第2主成分は日本体育協会関係資格か否かで、第3主成分は教員免許を取得希望する3つの主成分に集約された。大学3年生は、第1主成分は、小学校教員免許を除いた資格を、第2主成分は競技に関係するか否かで取得希望する2つの主成分に集約された。大学4年生は、第1主成分は、教員免許、障害者スポーツ指導員、図書館司書を除いた資格を、第2主成分は健康系か競技系かで、第3主成分は教員免許を取得希望する3つの主成分に集約された。

短大1年生は、第1主成分は、中高教員免許除いた資格を、第2主成分は教員免許、図書館司書を取得希望する2つの主成分に集約された。短大2年生は、第1主成分は、教員免許、レクリエーション・インストラクター、障害者スポーツ指導員を除いた資格を、第2主成分は教員免許を、第3主成分は福祉系か競技系かで取得希望する3つの主成分に集約された。結果の共通点は、第1主成分に集約された情報が、全学年、教員免許関係以外の資格を中心にして構成されていたこと、教員免許に関してはどの学年も基本的に主成分とされていたこと、健康・福祉系資格と競技系資格で取得希望傾向が分かっていたことが上げられる。

以上のことを総合すると、1) 本学科に設置されている資格を取得することはどの学年も重要と考えている、2) 「中高教員免許」の取得はとても重要と考えている、3) 健康系資格と競技系資格では個人により志向が異なり選択的に取得する傾向が強い、3件が推考された。これらは、大・短ともに卒業学年

Table 2. 資格取得希望の記述統計と学年間・資格間の分散分析結果

資格	大 学						短 大						F 値	学年間多重比較 (Tukey HSD)
	1年(U1)		2年(U2)		3年(U3)		4年(U4)		1年(J1)		2年(J2)			
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD		
1. 中高教員免許	4.11	1.30	4.41	1.13	4.14	1.30	4.38	1.02	2.81	1.56	3.02	1.42	26.290***	U1>J1, U1>J2, U2>J1, U2>J2, U3>J1, U3>J2, U4>J1, U4>J2
2. 健康運動指導士(実践指導者)	3.54	1.22	3.77	1.12	2.71	1.27	3.08	1.25	3.95	1.18	3.37	1.22	15.930***	U1>U3, U2>U3, U2>U4, U3<J1, U3<J2, U4<J1, U4<J2
3. アスレティックトレーナー	2.64	1.37	3.38	1.36	2.36	1.21	2.79	1.19	3.51	1.27	3.47	1.28	15.508***	U1<U2, U1<J1, U1<J2, U2>U3, U2>U4, U3<J1, U3<J2, U4<J1, U4<J2
4. 小学校教員免許	2.86	1.42	3.15	1.54	2.47	1.39	3.29	1.35	2.31	1.21	2.67	1.32	7.413***	U1>J1, U2>U3, U2>J1, U3<U4, U4>J1
5. レクリエーションインストラクター	2.40	1.01	3.29	1.31	2.47	1.16	2.64	1.18	2.88	1.33	3.55	1.16	15.871***	U1<U2, U1<J1, U1<J2, U2>U3, U2>U4, U3<J2, U4<J2, J1<J2
6. 障害者スポーツ指導員	2.59	1.14	3.41	1.35	2.61	1.24	3.01	1.26	2.91	1.31	3.38	1.19	10.115***	U1<U2, U1<J1, U1<J2, U2>U3, U2>J1, U3<J2
7. A.D.I.	2.11	1.13	2.75	1.34	1.98	1.23	1.91	1.03	2.95	1.37	2.65	1.33	13.273***	U1<U2, U1<J1, U1<J2, U2>U3, U2>U4, U3<J1, U3<J2, U4<J1, U4<J2
8. アクアビクスインストラクター	2.06	1.18	2.72	1.32	2.10	1.22	1.94	0.93	2.80	1.29	2.75	1.22	11.166***	U1<U2, U1<J1, U1<J2, U2>U3, U2>U4, U3<J1, U3<J2, U4<J1, U4<J2
9. スポーツリーダー	2.76	1.10	3.39	1.31	2.66	1.24	2.59	1.18	3.27	1.26	3.15	1.30	8.793***	U1<U2, U1<J1, U2>U3, U2>U4, U3<J1, U4<J1
10. 競技別指導者(コーチ)	3.05	1.20	3.56	1.33	2.97	1.29	3.10	1.20	3.12	1.25	3.35	1.29	3.982***	U1<U2, U2>U3
11. スポーツプログラマー	2.54	1.05	3.10	1.33	2.43	1.28	2.55	1.09	2.78	1.26	2.90	1.24	5.678***	U1<U2, U2>U3, U2>U4
12. クラブマネージャー	2.63	1.06	3.10	1.37	2.23	1.19	2.47	1.08	3.05	1.20	3.03	1.15	10.081***	U1<U2, U2>U3, U2>U4, U3<J1, U3<J2, U4<J1, U4<J2
13. 図書館司書	1.85	1.08	2.08	1.17	1.56	0.91	1.58	0.75	1.93	0.97	1.93	1.07	4.699***	U2>U3, U2>U4
F 値(Greenhouse-Geisser)	53.881***	42.111***	43.702***	39.195***	19.903***	10.339***								

1. **:P<0.01, ***:P<0.001.
2. <>:P<0.05

Table 3. 資格取得希望についての学年別主成分分析結果(大学)

	1 年						2 年						3 年						4 年						
	FAC1		FAC2		FAC3		FAC4		FAC1		FAC2		FAC3		FAC4		FAC1		FAC2		FAC3		FAC4		
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD															
1. 中高教員免許	-0.141	0.810	0.810	0.133	-0.104	0.289	0.718	0.140	0.091	0.856	0.408	0.268	0.034	0.672	0.116	-0.248	0.767	0.050							
2. 健康運動指導士(実践指導者)	0.577	-0.175	-0.374	0.266	0.718	0.140	0.091	0.856	0.408	0.268	0.034	0.672	0.116	-0.248	0.767	0.050									
3. アスレティックトレーナー	0.161	-0.641	-0.113	0.053	0.586	-0.527	-0.032	0.428	0.428	0.393	-0.517	0.577	-0.025	-0.426	0.041										
4. 小学校教員免許	0.094	0.729	0.099	0.259	0.461	0.257	0.581	0.387	0.327	0.712	0.167	0.167	0.167	0.167	0.145	0.720	-0.017								
5. レクリエーションインストラクター	0.658	0.029	0.098	0.172	0.745	0.347	-0.176	0.720	-0.418	-0.181	0.089	0.617	0.345	0.061	0.406										
6. 障害者スポーツ指導員	0.523	0.239	0.170	0.396	0.675	0.468	0.028	0.641	-0.147	-0.013	0.397	0.351	0.447	0.131	0.444										
7. A.D.I.	0.634	0.230	-0.634	-0.133	0.744	0.431	-0.314	0.604	-0.621	0.168	-0.050	0.579	0.571	0.046	-0.388										
8. アクアビクスインストラクター	0.605	0.215	-0.667	-0.086	0.785	0.319	-0.242	0.667	-0.481	0.180	-0.083	0.629	0.505	-0.001	-0.409										
9. スポーツリーダー	0.770	0.095	0.174	-0.267	0.808	-0.245	-0.155	0.748	0.109	-0.325	0.063	0.665	-0.440	0.024	-0.011										
10. 競技別指導者(コーチ)	0.497	0.128	0.404	-0.504	0.702	-0.532	0.187	0.657	0.499	-0.318	-0.107	0.513	-0.719	0.090	0.129										
11. スポーツプログラマー	0.751	-0.228	0.317	-0.139	0.805	-0.285	-0.141	0.741	0.333	-0.178	-0.218	0.691	-0.428	-0.273	-0.030										
12. クラブマネージャー	0.732	-0.176	0.358	-0.015	0.789	-0.428	0.016	0.762	0.359	-0.185	-0.091	0.648	-0.473	0.058	-0.157										
13. 図書館司書	0.263	-0.027	0.234	0.712	0.385	0.142	0.177	0.497	0.111	0.447	0.055	0.380	0.208	0.020	-0.406										
固有値	3.870	1.895	1.543	1.215	5.898	1.628	1.378	4.969	1.773	1.233	1.039	3.641	2.267	1.418	1.190										
寄与率	29.770	14.581	11.866	9.344	45.371	12.522	10.604	38.223	13.640	9.482	7.993	28.010	17.436	10.904	9.156										
累積寄与率	29.770	44.351	56.217	65.560	45.371	57.893	68.497	38.223	51.863	61.345	69.337	28.010	45.446	56.506											

Table 4. 資格取得希望についての学年別主成分分析結果(短大)

	1年			2年			
	FAC1	FAC2	FAC3	FAC1	FAC2	FAC3	FAC4
1. 中高教員免許	0.062	0.838	0.251	0.263	0.869	0.040	0.029
2. 健康運動指導士(実践指導者)	0.661	-0.215	0.016	0.555	-0.069	0.324	-0.526
3. アスレティックトレーナー	0.643	-0.186	-0.316	0.638	0.225	0.074	-0.593
4. 小学校教員免許	0.467	0.710	0.279	0.245	0.839	0.172	0.032
5. レクリエーション・インストラクター	0.709	-0.153	-0.145	0.392	-0.559	0.239	0.002
6. 障害者スポーツ指導員	0.682	-0.093	0.293	0.249	-0.074	0.771	0.091
7. A.D.I.	0.642	-0.365	0.541	0.750	-0.180	0.272	0.242
8. アクアビクスインストラクター	0.704	-0.318	0.545	0.722	-0.167	0.294	-0.029
9. スポーツリーダー	0.798	-0.035	-0.298	0.729	-0.038	-0.211	0.168
10. 競技別指導者(コーチ)	0.625	0.264	-0.237	0.692	0.035	-0.570	-0.123
11. スポーツプログラマー	0.832	0.033	-0.243	0.757	-0.008	-0.337	0.356
12. クラブマネージャー	0.765	0.155	-0.279	0.697	-0.182	-0.435	-0.110
13. 図書館司書	0.546	0.413	0.036	0.505	0.180	0.247	0.478
固有价值	5.551	1.821	1.220	4.469	1.962	1.687	1.108
寄与率	42.697	14.005	9.386	34.376	15.089	12.979	8.523
累積寄与率	42.697	56.702	66.089	34.376	49.465	62.444	70.967

生が特に顕著な傾向を示していること、調査時期が11月から12月であったことから、卒業の時点における学生の振り返り満足評価に充当しても差し支えないものと判断する。

まとめ

本学科における専門科目と取得可能資格に対する学年間に存在する意識の違いを分析することで、教育内容再検討のための手がかりとなる資料を得ようと本研究に着手した。結果から、明らかとなった点をまとめると以下のとおりとなる。

1. 学生たちは、基本的に栄養、医学、コーチング系の科目を、大学での学びの重要な科目として位置づけている。
2. 科目に関する分析においても、大学生は教職への志向が強く、短大生はフィットネス関連企業への就職志向が強いことが読み取れる。
3. 設置資格の取得は、どの学年も重要と考えており、中でも「教員免許」の取得はとても重要と考えている。
4. 健康系資格と競技系資格では個人により志向が異なり、選択的に取得する傾向が強い。

以上の点を勘案した、卒業時の振り返り、学生の進路、卒業生の振り返り、卒業生の活躍状況に対する調査が企画され、在学中の意識変化に対する追跡調査も加えた形で検討することを学科の課題とする。

文献

- 1) 株式会社ベネッセコーポレーションベネッセ教育総研, 学生満足度と大学教育の問題点 2004 年度版全国 4 年制大学学生調査より, 株式会社ベネッセコーポレーションベネッセ教育総研, 99 (2005)
- 2) 前掲 1), 92-95 (2005)
- 3) 梶田叡一, 新しい大学を創る, 有斐閣, 85-86 (2000)
- 4) 武庫川女子大学教育研究所「女子大学の存立意義に関する調査研究」プロジェクト, 「女子大学の存立意義に関する調査研究」報告書, 武庫川女子大学教育研究所, 337 (2007)
- 5) 武庫川女子大学履修便覧, 武庫川女子大学, (2005-2008)
- 6) 武庫川女子大学短期大学部履修便覧, 武庫川女子大学, (2007-2008)